令和8年度

学 力 向 上 プ ラ ン

【後期】

上尾市立大谷中学校

上尾市立大谷中学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標

明るく、夢を持ち、たくましく生きる生徒

学校課題研究主題

「自ら考え、主体的に取り組む児童生徒の育成」　～「学力向上」のために各校の実態に即した学習状況を通して～

学力・学習状況調査の結果

R８全国学力・学習状況調査	R８埼玉県学力・学習状況調査	R7 上尾市立小・中学校学力調査
・国語、数学、英語の３教科全てにおいて平均正答率は全国平均を上回っている。 ・国語では、「書くこと」や「記述式」の問題に関して無回答率が高い傾向がある。 ・数学では用語や数学的思考への理解に課題がある。 ・英語では「聞くこと」の領域に課題がある。	・学力レベルの平均は、国語が３学年で２レベル、数学が３学年で１レベル、英語が３学年で２レベル伸びている。２学年の数字では１レベルの伸びとなった。 ・１、３学年では国語、数学ともに学力を伸ばした生徒の割合は埼玉県を大きく上回っているが、２学年では学力を伸ばした割合が埼玉県の平均を下回っている。 ・学習方略の非認知能力の自己効力感の項目の数値が埼玉県と比較して低い。	・１学年では３教科とも目標値を下回っているが、２学年では３教科とも目標値を上回っている。 ・国語では「我が国の言語文化に関する事項」に課題がある。 ・数学では「記述」の解答形式の問題に課題がある。 ・英語では「書くこと」や「記述」の解答形式の問題に課題がある。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
① 教科内の各分野における基本的な用語。 ② 基本的な処理（計算等）能力や技能。	③ 聞く・読む・書くに必要な資質・能力。 ④ 課題を解決する手段を自ら考えるとともに、他に伝える力。	⑤ 問題に対して、主体的に学習に取り組み、周囲と協同的に学習を進める力。 ⑥ 本時の学習を振り返りなどの成果をまとめる力。

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
・授業の開始時に、本時の「課題」を提示する。また、基礎学力の定着を図るため、漢字や計算など、本時の授業内容と関連させた問題を適宜取り入れ、知識・技能の習得を図る。 ・積極的にＩＣＴを活用した協働的な学習を取り入れる。	・思考力・判断力・表現力等を高めるため、知識・技能の活用を意図した言語活動を授業の中で設定する。 ・学習課題に対し、自らの体験や経験を基盤として習得した知識・技能と、他者からの情報を合わせて活用しながら考え、それを解決するために表現する力を育成する。	・授業開始時の学習の「課題」に対し、終末部分で「ふりかえりカード」や「理解した内容」を振り返る時間を設ける。また、生徒の振り返りに対して、適切なコメントをするなどして評価する。

本校の特色ある取組	家庭教育との連携
① 褒める教育の推進 ② 道徳教育の推進 ③ 今泉小学校との小中一貫教育の推進 ④ 自問清掃 ⑤ ＩＣＴ推進	①家庭学習の取組 ②進路講演会、ふれあい講演会等の実施 ③全校授業参観の実施 ④三者面談の実施

２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
① 教科内の各分野における基本的な語句や意味を理解する能力。 ② 基本的な処理（計算等）能力や技能。	③ 聞く・読む・書くに必要な資質・能力。 ④ 課題を解決する手段を自ら考えるとともに、他に伝える力。	⑤ 問題に対して、主体的に学習に取り組み、周囲と協同的に学習を進める力。 ⑥ 本時の学習を振り返りなどの成果をまとめる力。

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	③ ④	③事実と意見を読み分け、筆者の考えとその根拠を的確に捉え、読解力の向上を図る取組。 ④自己の考えを書き留める活動を多く設け、自分の考えを深めさせる取組。	
社会	④ ⑤	④課題に対しての自分の意見を考え、発表したり、意見交換したりするディベートなどの機会を設け、言語活動の充実を図ることで深い学びにつなげる取組。 ⑤社会的な見方・考え方を働かせ、問いについて考える時間を設ける取組。	
数学	② ⑤	②授業開始に本時の目標を示す取組。 ⑤「自分で考える→ペア・グループでの話し合い→全体で共有し合う」の一連の流れを基本とし、話し合う活動の取組。	
理科	④ ⑥	④観察・実験レポートの作成を通して、結果からグループで話し合うことで理解を深め、考察、表現する取組。 ⑥その単元学習が日常生活や社会とどのように関連しているかを、具体例を示していくことで、科学の社会的重要性を理解する取組。	
外国語	③ ⑤	③「読み」「書き」の各活動につながりを持たせ、英語で自己を表現する取組。 ⑤ペア、グループ活動を取り入れ思考する時間を確保すると共に、助け合いの姿勢を育てる取組。	
音楽	② ④	②毎時間１０分程度の発声練習による基礎的な呼吸法と歌唱法の習得を図る取組。 ④強弱や詩の解釈を行い、意見を交換することで表現力を身に付ける取組。	
美術	① ④	①１つの材料でも多様な表現方法や使用方法があることを理解させる。 ④作品の制作途中で発表の場を設け、互いの作品を鑑賞する機会を設けることで鑑賞の充実を図る取組。	
技術	④ ⑤	④多くの体験的な授業を取り入れ、学び合いの場面を設ける取組。 ⑤グループ活動を取り入れ、課題解決型の主体的・対話的で深い学びの取組。	
家庭	② ⑤	②実習や実験の体験的学習を通して、作ることの楽しさや完成の楽しさから基本的な技術を習得させる取組。 ⑤生徒同士の協働作業、教員との対話等を通して、自己の考えを広げ深めるための話合い学習を取り入れ、課題を解決する取組。	

保健体育	④ ⑥	④ペア学習、グループ学習の場を設定して互いに教え合い、言語活動を行う中で課題解決を目指す取組。 ⑥学習カードを活用し、毎時間の課題を明示し、自己評価・相互評価の充実を図る取組。	
特別の教科　道徳	③ ④	③自分の体験やそれに伴う考え方や感じ方を基に自分なりの考えをもち，友達との話合いを通して道徳的諸価値のよさや難しさを確かめるような問題解決的な学習。 ④登場人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技などの体験的な活動を取り入れ、登場人物の考えを深く知る学習の実施。	
特別支援学級	④ ⑤	④将来自立して生きていくために、キャリア教育を充実させ、働くことを意識させた取組。 ⑤体験的な活動やスポーツ活動、文化的な活動を多く取り入れ、生涯学習への意欲を高めさせる取組。	

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

（２）教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
①褒める教育の推進	大谷中善行賞の取組 　褒める教育の一環として、学期毎に学級内で４部門（学習、清掃、係・委員会、あいさつ）においてアンケートをとり、全校集会で表彰を行う。
②道徳教育の推進	本校は、道徳の授業において、全学級、話合い活動を中心に行い、「問題解決的な学習」及び「体験的な学習」を実践している。道徳通信などの発行やアンケートの実施を行い、教職員の指導力向上と生徒の道徳性を育成できるよう努めている。
③今泉小学校との小中一貫教育の推進	夏季休業中に大谷中学校区（今泉小）と合同研修会を行い、小中一貫教育として課題と改善に向けた取組の共有や意見交換を行い、児童・生徒の健全育成に努めている。
④自問清掃	「自分たちの環境は自分たちできれいにする」観点から、清掃において自ら考え取り組む自問清掃を無言で行うことで、自分が担当する場所に対し、責任をもって取り組ませることや小さいゴミ等に気づき、率先して自分たちの環境を整える気持ちを養う。
⑤ＩＣＴの推進	授業において、一人一台端末を活用し Google Classroom やスクールタクトを活用した協働的な学習に取り組んでいる。Google Forms での小テストも行い、反転学習の時間を取り入れている。 　校務作業において、職員間連絡ＨＰ(校内ポータル)を作成し、ペーパレスを推進している。共有ドライブでの共有機能を活用した会議資料の作成など業務効率化も進めている。
家庭教育との連携	
①家庭学習の取組	家庭学習の一環として、調べ学習や授業の予習など、ＩＣＴ端末等を活用した宿題を実施している。
②進路講演会、ふれあい講演会等の実施	家庭内で進路や養育について悩む保護者を対象に、積極的に学校行事への参加を促し、家庭教育の一助とする取組をしている。
③全校授業参観の実施	授業参観の機会をつくり、積極的に学校教育の取組をアピールし、また、担任との個別の面談に備えることもしている。
④三者面談の実施	１２月（全校三者面談）に機会を作り、学校と家庭との情報共有を図っている。随時、担任は、家庭と連絡を密にとり、連携強化を図っている。